

# 神戸遊戯誌 39

## ★花やかでマジメ

いわゆる“古きよき時代”的流行の花形の一つはダンス(社交ダンス)だつた。第一次世界大戦後の大正十年ごろから昭和初期へかけての平和時代には、ヨーロッパからはフランスの絵画や文学、ソビエトの革命思想とマルキシズム、アメリカからのジャズなどが相ついで輸入されて、当時の青年男女を強く魅惑したが、娯楽の面でとりわけモボやモガを熱狂させたのは昭和初年からしだいに行なわれるようにになったダンスだつた。むろん、このダンスは当時町々の喫茶店などで盛んにかけられていたダンス・レコード(トロット、ワルツ、ブルース、タンゴ)とならんではやつたものだつたが、最盛期の昭和七

八年から十二年ごろへかけては神戸や阪神間にはダンス・ホールがたくさんできて、キャフェやバーとは違った花やかでロマンチックなふんいきをかもし出していた。

わが国における社交ダンスはそれこそ明治の鹿鳴館時代にさかのぼるが、一般人にまで及び出したのは大正以後のことと、それもめだつようになつたのは大正末期と昭和早々ごろだつた。関西ではまず大阪にあつた精交クラブというダンス教習所で正式な社交ダンスの指導と実習が行なわれていて、神戸からも習いに通つたファンが幾人かあつた。このころ東京では玉置真吉という人がダンス教師として有名だつたが、神戸でも早坂東一、姫野市電山手線浜側のトア・ロード西側あたりで教習所を開いてい



①  
ダンス  
重雄  
青木

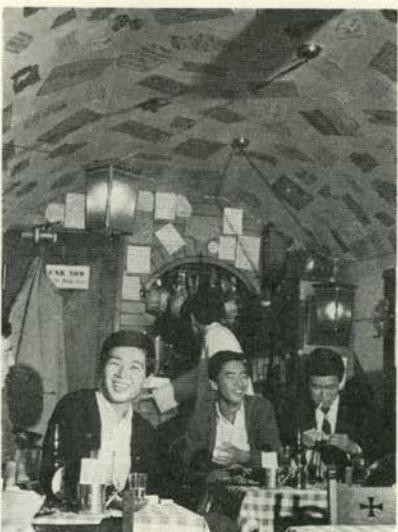
た竹内某という教師もいた。だが、当時はまだダンスを習う人の数は少なくて、教習所でいたつてマジメに習うか、家庭でコツソリ踊っている人がいる程度で、一般には“男と女が踊る”というだけで色目で見る風潮が強く残っていた。だから、その後六、七年ごろになつて各都市に女性の職業ダンサーを多数抱えたダンスホールが出現して一世を風靡するようになつてからも、大阪市などは風俗上不可という考え方から営業を許可しなかつたため、今から思うとソのような話だが、大阪のダンス・ファンはやむをえず、生駒山上の生駒ダンス・ホールへ行くか、淀川を渡つて兵庫県の尼崎一帯か神戸のダンス・ホールまで出かけて来ないとダンスができなかつた。ダンス・ホールの最盛期は八、九年から十二年ごろへかけてで、どこへ遊びに行つてもダンスができぬと恥ずかしかつたほどだし、バー やキャバaretでもダンスのうまい娘（こ）が大きな顔をしていた一時期もあつた。ダンスが一時に流行したのは、欧米映画とダンス音楽の影響が大きかつたことはいうまでもないが、欧米からの帰国者が多くなつてきたことと泰平ムードがなんといつても原因だつた。神戸市内に最初にできたのは「K.N.K」・ダンス・ホール（現在のミンヘン・ビアホールの前あたり？）だつたが、つづいて山本通に「ソシヤール」の前身のホールが三、四年ごろにでき、その後七八年となると三宮一帯に「キャビトル」「ソシヤール」「ダイヤ」「花隈」（最後にできた）が生まれて長いドレスを着た華やかなダンサーたちがダンスファンを吸収した。神戸電鉄沿線の鈴蘭台に九年ごろに設けられた「鈴蘭台ホール」は、市中ではなく、静かな山の中を作られたオモムキの変わつたホールとして特別の人気を集めたものだつた。大阪の客を目当てで阪神間にも続々と作られた。尼崎の「尼崎」、杭瀬の「バレス」「キング」、西宮の「ガーデン」「西宮」、宝塚の「宝塚」などだつたが、とくに宝塚は家庭向きで上品だという看板を誇つていた。どこのホールにも三、四人のダンス教師がいて（神戸市

内だけで当時全部で十数人で全部二十歳代）ダンサーにホール内でダンスを教えていた。神戸市内のダンサーは二百人ほどだつたが、養成期間の三ヶ月をみんな熱心に習つていたので一人前になつた時はなかなかじょうずだつた。ダンサーは全盛期は午後二時から深夜二時までの約十二時間も踊つていたが、給料は平均八十円、といつても、当時大学卒生の会社の月初給が五十円ぐらいいだつたのだから決して悪くはなく、ナンバーワンぐらいになると百五十円から二百円にもなるものもいた。客は初めてのころはむしろ年配者が多かつたが、後年になるにつれて若い者がふえ、みんな一枚昼間五錢、夜十錢（後年十五錢—二十錢）のダンス・チケットを買い、胸をはずませてそれぞれ好きなダンサーのいるホールへ通つたものだつた。だが、今から振り返つてみると当時は案外「ダンスをほんとうに楽しむ」という純粋な気持ちの客が多かつたせいか、ダンサーとの妙な事件などは一部を除いてあまり起らなかつた。現代のような歓楽街の不良なども少なかつたようだ。その点、ホールのムードも純粋な楽しさと和氣にあふれていて、『青春のない青春』といわれる現代の青少年層などにはない青春のよろこびが、ホール一杯に充満していたようだ。一度、「ダイヤ」でビストル事件が発生したことがあつた。昭和十一年ごろだつたが、大阪から踊りに來ていた高橋という客がなにかのもつれで田中というホールのバーイをビストルでうつて病院へ運んでいた——。神戸の諸ホールのうちでも、「ダイヤ」は港に一番近い朝日会館の裏にあつたせいか、日ごろ外人客が多く外国軍艦がはいつた時などマドロスで一杯だつた。それに、このホールはレンガづくりで、内部も外も薄暗かつたので、よけいに薄気味が悪かつたものだ。また、ダンス客についていうと、年齢的には今日の五十歳前後から六十歳までの男性が一番多かつたと思われるが今日の神戸の知名人のなかにダンスのベテランがかなり多くいることも興味深い。

# 神戸うまいもん巡礼

No.51

赤尾兜子  
西洋料理の巻



ビノキオのいかにも神戸らしい雰囲気の店内

新しい街づくりの動きがかなり目につく神戸。そこにはおのずから味覚の開発があるべきだろう。

今月は、そうした目でひろった店を紹介しておく。

「PALL MALL」（ボール・モール）生田区三宮町二、朝日会館北西、阪神相互銀行ビル地下）は、この十月開店したばかりのレストランである。神戸に多くの映画館を持つ神映興業がはじめて味覚に手をつけた店でもある。

それだけに、相當な意欲をそいでいるらしく、決して広々としているとはいえないが、店のデザインや調度品をすいぶん凝ついている。アメリカたばこから採った店名「PALL MALL」のマークを天井にまで散らし、食卓の上の燈は、スウェーデン製。ワゴンも別製といったふうに、凝りすぎているくらいである。

はじめの店が、西洋料理のいろいろのメニューをそろえるように、この店も目下その例外ではないが、やはり



そこは神戸ビーフの本場、メニューのなかで神戸肉を材にしたステーキがすぐれている。特選ヘレ（二五〇〇円）ヘル（一〇〇〇円）ロース（一五〇〇円）薄切ロース（一〇〇〇円）といったところ。サラダとパンかライスつき。肉を精選してあって、その味、神戸の名うての店のステーキの水準に達していると思う。

ランチタイムには、定食（五〇〇円）もやつているが、夕方の八時になると、食卓のクロスを白から赤にとりかかる。そこにもフキンキを作ろうという配慮がみえる。午前二時までの開店。すでに客の一割が外人らしいがこんご新らしい深夜レストランとして神戸らしいカラーを出してゆくことにするかもしれない。世界各国の酒もよく集めてるので、いきおい、これに手を出す客も多くなるであろう。

ピッツア専門の店「ビノキオ」（生田区北長狭通二丁目、トア・ロードの国鉄高架北、一つ東の筋の地階）はユニークである。昨年五月の開店。ピッツアハウスといっている。神戸カナディアンスクール卒業、芦屋で茶房を開いていた三浦明定君が三年前、アメリカにいるカナディアンスクールの同窓生からアメリカでピッツア

熱がひどく高いことを知らされて、カリフォルニアにあるピツツアメーカーと契約、ピツツアの輸入、おろしに着手したが関西では東京ほどブームとならず、それでほとんどは実地に料理して売る店を出したというしたい。

表にささやかな店名のしるしがあるだけ、細い階段をおりてゆくと、店内は約十平方筋ほど、三十人がせいぜいいっぱいのスペース。まことに小粒の店だが、天井に若者たちのおもいおもいの落書きが間合いよくはってあり、燈はランプスタイル、たいてんエキゾチックな感じである。開店当初は外人ばかりが客であった。しだいに日本人があふえ、昨年はゴーゴー旋風がこの小店に吹きまくり、連日四十数人若い客がダンゴのようになつて、狂気のように踊り、店は繁昌したが、かんじんのピツツアの方がたいして売れなかつたので、カリフォニアのメーカーから叱られた。いまは、自然なフンイキにもどつている。ところで、この店のピツツアは四十五種ある。(本場に



ピノッキオのカニ・ベーコンのピザ<P95写真上>

ポールモールのフルコース<P95写真下>

ゴージャスな雰囲気のポールモールの店内。<P94写真下>



は二百種ある) いずれもアメリカから輸入するピツツアの台を使い、まずオーブンで湿気をとり、オニオン、玉ねぎのみじん切り、それに十数種のスパイスで味つけし、十二分ほどかけて焼きあげる、二十均大。値段はいずれも三〇〇円。肉気が濃いペーコン、いささかさらつとしたカニピツツア、それに野菜ピツツアがよからう。カニは若い女性に評判らしい。一枚で十分たんのうするが、外人ではファミリーサイズ、つまりダブルをべらりとたいらげる人もあるそうだ。南米諸国領事や民芸の小夜福子さんが来たりもする。厨房を若い三浦君夫婦がやっているが、そのせいもあって、いかにも若者の店という印象が濃い。一口にいうとピツツアとは西洋お好み焼、まさしく戦後登場した味覚である。こんどはタコス(メキシコのぎょうざ)に手をつけてみたいというが、ともかく新らしいかも神戸らしい感覚がある。店名そのままかわいい店である。

ポケットジャーナル



★新商売  
車のための出張美容室  
マイカ一疾二ヒツメ

さかのほつて進めて、でき  
るだけ史実に忠実に、少な  
い資料を丹念にさがしもと  
めてまとめあげたもの。  
神戸つ子に一読をおすす  
めしたい良書である。

緒方しげを指導の黒影会は兵庫県写真界のダークホースの存在として最近めきめき力量を發揮して来た。

神戸開港百年刊行記念  
あの山、この道、わたくし  
たちが毎日見ているものの  
成り立ち、うつりかわりを  
一度、歴史のビダまで照ら  
して調べてみたい——とい  
う読売新聞社神戸支局の熱  
意のもとに、昨年の神戸開  
港百年を記念して、昭和  
年2月1日から同新聞神戸  
版、淡路版に百九十四回に  
わたって連載されたもの。

A black and white photograph showing a group of people gathered around a small, traditional wooden structure, possibly a shrine or a simple house, in a rural setting with hills in the background.

緒方しげを指導の黒影会は兵庫県写真界のダークホースの存在として最近めきめき力量を發揮して来た。 第五回兵庫県美術公募展写真部門でも会長の佐野秀雄(公募展賞)をはじめの大半を占め、他の展覧会、コ

薄弱の方たちは、安易な同情やなく、さめを求めて、いるのではありません。社会人として、生きていゆる、生きてゆくことを望んでいます。そして多くの精神薄弱な方は、正しい理解と、あたたかい思いやり、適切な治療と訓練さえあれば、充分に社会人として生きていゆけるのです。この問題は、私たちにいつづりかかるかも知れない問題であります。

誕生日  
ありがとう  
運動



# 神戸で日本青年会議所第15回全国大会開く

常陸宮ご夫妻をお迎えして



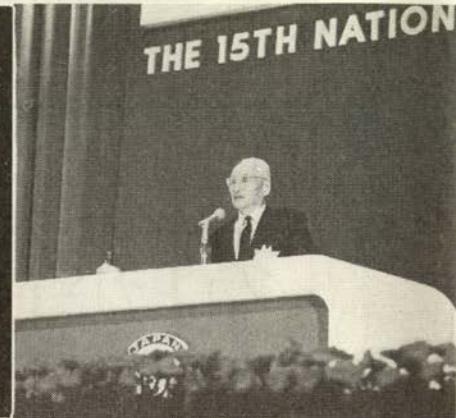
若き力溢れる全国会員大会  
行動するJCの面目を發揮

十一月五日（土）午前十時常陸宮ご夫妻を神戸市立中央体育館にお迎えして、日本青年会議所、第十五回全国会員大会の幕が切って落された。

中央体育館を埋める日本JCの会員は、全部で五二〇〇名、海外JCから、多数のJCを迎えて活気あふれる雰囲気で、開会式がひらかれた。

まづ大会委員長、大阪のJCの北山公資氏が大会宣言神戸JC理事長、島越浩氏の歓迎の挨拶があつて来賓祝詞、常陸宮からも祝詞をいただき、参加JC会員を各地域ごとに紹介、いよいよ盛上り、最後に日本JC辻兵吉会頭が挨拶開会式を終り、分科会など大会行事が進められた。

分科会は、第一分科会は「福祉国家建設とJCの役割」講師は林雄一郎氏（経済企画庁経済研究所長）第二分科会は「青少年の健全育成について」講師、古谷綱武氏（社会評論家）第三分科会は川重健保会館講師、矢野智雄氏（経企庁、国民生活局参事官）第四分科



前頁（右上）米賀席にお着きにな  
った常陸宮ご夫妻  
(左上) 盛大に開かれた日本青年  
会議所第15回全国会員大会  
(右下) “若い力”像の前に集つ  
た全国のJ.C.マンたち  
(左下) 田崎真珠六甲工場を見学  
される常陸宮ご夫妻  
(右上) 大会記念講演会で講演す  
る出光佐三出光興産会長  
(左上) 次期開催地の紹介ではな  
やかなファーネを飾つた“さよ  
なら神戸”  
(右下) 海外からも参加したJ.C  
たちとその家族  
(左下) “さよなら神戸”的舞台  
でうたう朝丘雪路



J.C.の清新な活力に満ちた大会  
は次期開催地が紹介され、さよな  
ら神戸のファーネで幕をとじた  
が、このほかに沖縄物産と韓国展  
△大丸▽、兵庫県物産展△十合▽  
業種別部会活動、インターナショ  
ナルナイト、日本J.C.シニアクラブ  
懇談会ほか多彩な行事が行われ  
大会は盛会裡に終つた。

会は「新しい時代における青年経  
営者の課題とその条件」講師、湯  
浅佑一氏（湯浅電池㈱社長）、講師  
坂本藤良氏（経営評論家）、第五分  
科会、「日本の立場より見た近畿  
の地域開発問題」講師、原口忠次  
郎氏（神戸市長）、講師、米花稔  
氏（神戸大学教授）、第六分科会は  
「世界の中の日本」講師、石田博  
英氏（元労働大臣）、講師、小坂徳  
三郎氏（信越化学㈱社長）と従来  
の歴史を破り、“行動するJ.C.”とし  
ての理念追求に白熱の討議が展開  
されJ.C.の意欲が十分に理解され  
翌六日は午後一時三十分より、  
神戸中央体育館で大会記念講演会  
が開かれ「日本人の経営」という  
テーマで、出光佐三氏（出光興産  
会長）が講演、大会決議が発表  
された、今大会の特別決議では、  
中央政治に対して自民党総裁選に  
は派閥争いをやめ国民大衆を忘れ  
るな。また民主政治育成のため財  
界の指導者は勇気をもつて発言す  
ることを望むと、現在の政財界に  
対して直言した。

J.C.の盛会裡に終つた。大会は  
は次期開催地が紹介され、さよな  
ら神戸のファーネで幕をとじた  
が、このほかに沖縄物産と韓国展  
△大丸▽、兵庫県物産展△十合▽  
業種別部会活動、インターナショ  
ナルナイト、日本J.C.シニアクラブ  
懇談会ほか多彩な行事が行わ  
れ大会は盛会裡に終つた。

鮓	味	り	蜂
の	が	ん	蜜
又	い	ご	と
平	つ	酢	
	ぱ	の	
	い		

神戸三宮生田ノ社ノ西

鮓の又辛

電話・三の宮 ⑬ 0935



神戸一料理の美味しい店 赤坂・赤坂・赤坂  
忘年会  
会へ完全暖房

△温いお部屋で  
△神戸肉の清盛焼(バター焼)  
△楽しい魚ちり、てつちり  
◎三割引お酒一本づけて  
二〇人、三十人、五十人、  
一〇〇人一部屋で一度に出来  
ます。  
今すぐお申込み下さい ↓

神戸中山手四 TEL ② 7836・7846

## ★第四回神戸っ子の会

「秋の京都路とミロ展」

### 感激の一日

神戸っ子の会第四回例会「秋の京都路とミロ

展」は十一月三日文化の日、秋晴れの下で楽

しい一日をすごしました。午前八時三十分、ちょっぴりねむい目をが

まんしながら三十九人が集合、観光バスに乗り込んでも定通り午前九時神戸国際会館前を

出発、一路京都へむかいました。

第二阪神国道をすぎ、名神高速道路に入つて車中講師にお招きしていた美術評論家赤

根和生氏から「巨匠ミロ」の解説をお聞きし

午前十一時円山公園の中にある平野屋の数々

「いもぼう」で昼食、その後は近代美術

館京都分館で開かれている「ミロ展」を観賞

しました。

夢と色とユーモアを主張するミロの数々の

作品を前にして神戸っ子の会員も感激のため

ありました。すぐれた芸術の味は忘れがたいものが

帰りは京都市内を一巡、マイクを回して一

口小話や得意のノドを聞かせながら午後四時

すぎ神戸に帰りました。

△編集部▽



★なお第五回神戸っ子の会例会についている  
いふご意見をお聞きしてますので、ご希望、ご意見がございましたら、編集部までご連絡ください。お待ちしております。

★「神戸っ子の会」会員には次のような特典  
があります。  
①毎月「神戸っ子」をお届けいたします。  
②「神戸っ子」編集部へ主催されるさまざまな  
催しに、自由に参加することができます。  
たとえば次のような催しです。

イ、一流作家、学者、芸能人を講師に迎え講  
演会。  
ロ、「神戸っ子」特選名画鑑賞会  
ハ、美術展覧会見学、古寺巡りなどを目的と  
するバス旅行。

ニ、神戸のうまいものを食べる会。  
③神戸店舗でお買い物をされる方にいろいろ  
申込用紙(神戸っ子編集室へお申込みください)  
に所定の事項を記入のうえ、入会円2百円と会費三百円を、神戸っ子編集部へ納め  
ていただきさえすればよいのです。美しく豪華な会員証をさしあげます。その翌月からは  
毎月三百円を納めていただきます。

★新しい日本を創造する総合雑誌

# オール関西

11月号発売中 ¥ 120

<書店売>

1年分1500円郵送料含む お申込みは大阪市北区西寺町2ノ8・ニューエーチ代ビルオール関西編集部 振替口座 大阪 45083

11月号表紙早川良雄

<関西の情報を満載!>

★現代の美を創る「未生流」中山尚子—カメラ井上青竜

★O.H!競馬時代—カメラ井上青竜

★フォークソングブームを探る—末広光夫

★時事放談—おもうなるか万国博

末次撰子・廣瀬智生・小松左京

★鶴居羊子の恋愛問答—桂米朝

★創作オレンヂステップ・熊田真紀/ノンフィクションパーティ・船知慧



# 異人館物語



連載第三話 『ヘルン旧居の巻』 3

## 小泉八雲と神戸

小山牧子　え・石阪春生



LAFCADIO HEARN

隱岐の島ゆきを思いとどまつたその翌月、明治二十八年十月、ハーンは正式に日本への帰化の手続きを果たした。それは、かねてから彼の心中をしめていた大きな問題であった。

セツと一雄の将来を考えるならば、ハーンが日本に帰化し、内妻としての立場しか与えてくれないセツと正式に結婚し、一雄の戸籍を二人の間にできた長男として届け得ることが望ましかつた。しかし、ハーンにとつては母国イギリスへの愛着もまた捨てがたいものであつた。

日本人の妻子への愛とイギリスへの祖国愛。ハーンの心は、その二つの間でゆれ動いた。しかし最後に、妻子への責任感が、ハーンを帰化にふみ切らせた。

どこへ飛んでしまつかわからぬ自分の心を、しつかりとこの日本の土地に縛りつけ、創作の仕事に専念しよう。妻子への責任を果たすということのほかに、ハーンがこの神戸の街で、やつと定着を望みはじめたといふことがハーン帰化の別の大きな理由になつてゐる。

それは、四十五才という年輪をかさねたハーンの成熟であるともいえた。

ハーンは、帰化名を彼がこよなく愛した出雲の地をうたつた「八雲立つ出雲八重垣」の歌からとり、小泉八雲と名のつた。小泉は妻セツの姓であり、"士族小泉八雲"の名前を強く望んだハーンは、小泉家の養子婿として帰化を実現させたのである。

帰化問題が落着したあと、ラフカディオ・ハーンすなむち小泉八雲は、がむしゃらなまでに創作の仕事に打ちこみはじめた。すでに壮年期を過ぎようとしている八雲である。一つでも多く後世に残る作品を書き残さねばならなかつた。

寸暇をおしんで書斎にこもりきりになつてゐるある日あぶなつかしい足どりでセツのそばにやつてきた八雲はいった。  
「ママさん。私のよい方の目、病氣と思ひます。小さい文字、読むことできません」

もともと視力の弱い八雲の目は、過労のため使い物にならないほど弱ってしまったのだ。

「パパさん。私、願う。しばらく仕事休んでください。

無理しますと、パパさんの目、だめになります」

セツは、子供をあやすようになだめ、八雲を書斎から引っぱりださねばならなかつた。

十一月中旬のある夜、セツは疲れきり、視界もかすんでしまった八雲を案内して、須磨の浜でかけた。

国鉄須磨の停車場で汽車を降り、傾いた古い家並の漁師町を通りぬけ、西のはずれに出ると、そこは源平の合戦にゆかりの深い一の谷の浜辺と、それにせまる松林である。近くに源平の合戦で首をうたれた平家の公達、平敦盛の墓があるところである。

その夜は、月が冴えざと澄んでいた。秋風が膚にしみ、浜辺では渚に白い波頭が立ち、月の光にかがやきながら砕け散っていた。

須磨の秋は、浜辺も松林も人影ひとつなく、ざわざわと荒れ果て淋しいかぎりであった。そして八雲は、いつもこういった淋しい場所と風景に心ひかれるのだった。

「ママさん。あなたきこえませんか？あれ、平家の亡靈呼がんでいます」

耳をすますと、それは松の枝先をふるわせて過ぎる秋風の音であった。

セツは、その頃から街の古本屋で古い日本の民謡や伝説の本を買い集め、それらをやさしい日本語におおして八雲に話しかけていた。その話の中には、須磨の背景になつてゐる話も二三ふくまれてゐる。

八雲は、どの話にも熱心に耳を傾け、深く心にとどめているのだった。

「パパさん。今夜は、松風村雨の話、してあげましようか？」

浜辺からそれに続く松林に歩を運びながら、セツが云つた。

視力のうすれた八雲の片目が、熱っぽくかがやきはじめた。

やがて、二人は松の木の根もとに坐り、セツはゆつく

りと話しあ始めた。

「昔、この須磨の浜に松風、村雨と呼ばれる貧しい汐くみの姉妹がありました……」

セツの胸に日本の古典芸能である能楽松風の象徴的で美しい舞台の情景が、あざやかに浮びあがつた。

貧しい汐くみ娘の姉妹が、朝廷の不興をこうむつて都をはなれ、この須磨の浦でわび住いをしてた行平卿の寵愛を受けることから、その物語は、はじまつた。二人の娘は、名を松風、村雨と呼ばれた、行平卿にわけへだてなく愛されながら、二人の娘たちにとつて三年の年月は夢のように過ぎた。やがて、行平は一枚の狩衣を形見として二人の姉妹に残し、許されて都へ帰つた。残された二人は、音さたもない行平を恋いこがれながら年老い、あい前後してこの地で死んだ。二人が住んだゆかりの地には、一本の松の木が生え、暖い雨が降るたびに、その木はすくすくと伸びてゆくのだった。松風村雨の物語は、能楽として再構成された。

能舞台の中では、一人の旅の僧が須磨の浜で松風村雨の亡靈に出会い、二人の亡靈は狂おしいまでの行平への恋慕の情をうちあけるという筋になつてゐる。

古い士族の家庭に育つたセツは、能楽の素養も十分に持つていた。そして、八雲に語るセツの松風村雨の物語もいつしか能楽『松風』の方に移つていった。

ある夜ふけ、それは月の美しい晩でありました。旅のお坊さんが、傾きかけた汐くみ女の家に宿を頼みました。奥から現れたのは、荒れはてた家に不似合な若い娘でありました。お泊めできるほどの住家ではございません……、と、娘は何度もお坊さんの頼みを断りました。お坊さんは、何度も頼みました。どうぞ、どうぞお願ひします、と申しました。それで、奥から出てきた姉娘がお坊さんならばどんなに見苦しいところでも我慢してくれます。

ださるでしょう。どうぞお泊り下さい、と申しました……」

セツの声は、浜辺からきこえてくる潮騒の音とまさり合ひ、途切れがちに響いていた……。

突然、八雲のぼやけた視界にありえない一つの情景が映つた。

古風なよそおいの二人の娘が、渚にかがみ、持つてきただ手桶に水を汲もうとしているのだ、やがて、手桶の中に満々と水を汲んだ二人は、ゆっくりと八雲の方に近づいてくる。手桶の水には空から墮ちてきた白い月影が浮かびゆれている。

二人の娘が八雲の前にきた時、それまでこうこうと輝いていた月がさっと雲間に入り、あたりは一面闇になつた。二人の娘の白い顔だけが闇の中に浮きあがり、暗い海では、沖に出ている漁舟のいさり火が、不吉な赤さで燃えていた。

「松風、村雨！」

驚きの声をあげる八雲のまえで、二人の娘はうなずき

悲しげに微笑んだ。そして二人は、行平卿と過した日々の楽しかった思い出を、だれに聞かせるともなくかわるがわる語りはじめた。

やがて、年上の娘は闇の中に消え、手に男の狩衣を持つて再び現われた。

「この身は、賤しい沙くみ女でございますが、あのお方様を恋しいと思う心は、だれよりも強うございます」姉娘の松風は、男の狩衣に顔をうすめ、さめざめと泣き伏すのだった。娘の感情は、次第に乱れてゆくようであつた。

やがて、うずくまり泣き伏していた松風は立ちあがりあらぬ方向に手をさしのべ叫んだ。

「おなつかしゅうございます。行平様！」

松風が駆けてゆこうとするその先には、一本の松の古木がひつそりと立ちつくしている。

「おとどまり下さい。正気にお戻り下さい。あれは松の木でございます！」



松風を押しとどめようとする妹娘の村雨の両頬も、涙でぐつしょりとぬれていた。

そして八雲は、彼のそばで膝を打ち、調子をとりながら謡うセツの澄んだ声をきいた。

「たとえしばらくは別れて暮らしても必ずここへ帰ってくると、やさしいお言葉をかけて下さった行平様が、なぜ帰らないはずがありましよう。あの物影が松の木であるなら、やさしいお言葉だけを残して去ってしまわれた

行平様こそうらめしい……！」

すでに松風の顔からは、娘らしいあどけなさは消えていた。そして、行平の形身の狩衣を身にまとい、舞いはじめるのだった。

表情を失なった蒼白な顔を闇のなかに浮かびあがらせ狩衣の袖を秋の風にはためかせながら、松風の舞いは静かさから狂乱をあらわす乱調へと高まってゆく。

舞い狂いながら、松風は狩衣の袖をあたかも怪鳥が羽ばたくしぐさで大きく広げ、木の根方に坐っている八雲のまえに迫ってきた。近々と見る松風の顔は、行平への妄執を捨てきれずこの世に迷いだした幽鬼そのものであった。つりあがつた目じり。そそけ立つたおくれ毛が、青ざめた頬に亂れかかり、舞の調子は、さらに急調へと盛りあがり、やがてびたりと止った。

「パパさん。あなたいけません。眠っているではありませんか？」

近くでセツの声がし、八雲はわれに返った。

「いま不思議のことありました。私、眠ってはいませんでした。ママさんの話、一心にきいておりました。すると、私のまえに松風と村雨の二人の姉妹が現われ、物語いたしました。舞いを舞いました」

八雲は不自由な目であたりを見まわしながら云つた。折から月を隠していた雲が風に追われ、林も浜辺も白々とした月光の中によみがえろうとしていた。

そこには、八雲が見たという松風、村雨の姿は消え失せ、潮風にさらされた松の古木が、立つたまま息をえた老人のように意固地な姿で、曲りくねつた枝を宙にさしのぼしているのだった。

須磨の浦かけて吹くや後の山おろし  
関路の鳥も声々に

夢もあとなく夜も明けて  
村雨と聞きしも今朝みれば  
松風ばかりや残るらん……：

それは、能楽『松風』の最後の一節である。風は肅々と松の枝先をふるわせて過ぎ、潮騒の音は、セツの謡声をかき消すように高まりたあまり秋の夜はふけてゆく。

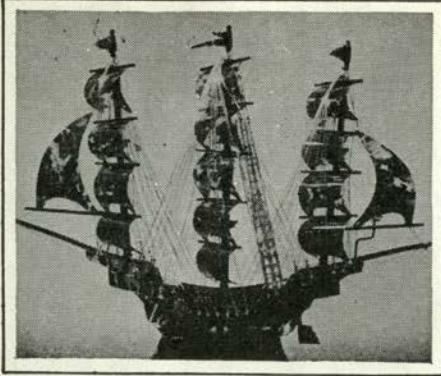
八雲は、ゆっくりと立ちあがつた。セツもまた立ちあがつた。

八雲の胸には、再び新しい激情がもえはじめていた。彼は、その夜みた松風村雨の面影をしつかりと胸に抱いていたかった。そしていつか十分に機が熟したとき、あの姉妹の悲恋の物語を、亡靈と化した女のすさまじい執念を彼独自の文学作品の中に定着させたいと思うのだった。

やがて八雲は、いつもの踊りはねるような足どりで、林の中の道を停車場にむかって歩きはじめた。背後をふり返りセツをいたわることも、話しかけることもなく、彼はどんどんと足を早めてゆく。言葉をかけてもふり返つても、八雲の胸にひととき宿つた美しい幻影は、こわれてしまふかも知れない。八雲は、それを恐れた。

そしてセツもまた、夫の胸にもえはじめた激情を察し無言のまま、せい一杯足を速め、やさしい影のように八雲のあとに従つてゆくのだった。

(つづく)



センスあふれる  
べっ甲専門店

**太田 鰐甲店**

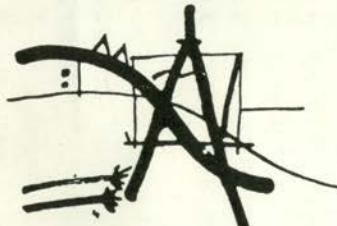
元町1丁目 TEL (33) 6195

創作ハンドバッグ  
工芸品 ORIGINAL

神戸 ■ 元町  
ACCESSORIES  
**イクシマヤ**

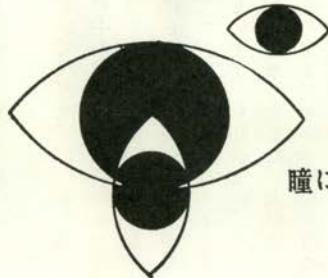
TEL. (33) 2415・2416

額縁絵画・洋画材料  
室内工芸品



**末積製額**

三宮・大丸北  
トア・ロード  
(33)1309・6234



瞳に美しさを保つ  
スポーツに  
美容に  
現代の科学が生んだ  
コンタクトレンズ

**国際コンタクトレンズ研究所**

神戸市葺合区御幸通八丁目九ノ一（三宮駅前）  
神戸国際会館内 TEL (22) 8161・8361

創業明治二十一年

# 履物の山下

古い老舗に新しいセンス

神戸 三宮センター街

TEL ④ 0256

確実正札 完全冷暖房  
静かに品選びの出来る店

オードコーカス-C

オードコーカス-  
KOBEの街と

ともに40年—

ユニークな香りの

高級ヘヤートニックです



## 三星堂

発売元 / 神戸

TEL 大代表23-4341

高級きものとおび  
しみぬき・活版専門店



平野

## つるや東店

兵庫区神田町125

(家庭裁判所前東1丁)

TEL ④ 6932

The  
**Cosmopolitan**  
Valentine F. Morozoff

## コスモポリタン チヨコレート・キャンディー

神戸本社 神戸市生田区三宮町1丁目170 電話 33-5304

神戸直売店 神戸市生田区三宮町1丁目 電話 33-1217

大阪堺筋店 大阪市東区淡路町2丁目 電話 231-6979

大阪心斎橋店 大阪市南区安堂寺橋通4丁目 電話 251-4182

東京銀座店 東京都中央区銀座8丁目 電話 571-2303

東京新宿店 東京都新宿区角筈1丁目 電話 352-2436

千葉駅ビル店 新宿ステーションビル地下2階 電話 352-2436

千葉市新町千葉駅ビル名店街 電話 7-2534



ハイセンスの紳士服で最高のおしゃれを!

## 三恵洋服店

元町4丁目 TEL 34 7290



よろずゆ  
襯衣縫上處

## 神戸シャツ

大丸前 TEL 33 2168

男らしさがにじむ マンヤマの紳士洋品



高級洋品

# マンヤマ

神戸元町1丁目  
TEL (39) 4880



紳士洋品の店

# 千秘庵

元町4 TEL 34 6959



世界の品々は  
サノへでお選  
びください。

**サノ** // **ア**

元町 2 丁目  
③34707~8



高級紳士服専門店  
**神戸テーラー**  
さんちかメンズタウン TEL ⑨0388  
生田区北長狭通2(阪急西口) TEL ③2817・3173



高級紳士服  
**山名洋服店**  
神戸三宮生田筋 ③5797



Mr. Kent  
came to Kobe  
流行に左右されない  
本来のオシャレ  
それがKentです  
シックな  
スコッチ風の店舗  
それがFunakiyaです

オシャレ洋品の店  
**フナキヤ**  
元町 3 TEL <33> 3617



ご贈答に風味豊かなカステーラ  
**長 崎 堂 本 店**

本 店=大橋町5 大五ビル (61) 0553-4  
新聞地店=松 竹 座 前 (56) 2 4 2 3  
元 町 店=元 町 6 (34) 4 1 3 0  
きんちかスイーツタウン (36) 3 6 2 5

お歳暮に  
灘の生一本

清酒  
**大黒正宗**

おすし  
てんぷら  
**榮補**

本店 三宮 町二・朝 日 会館 前  
TEL さんちか味のれん街 (毎週月曜日休み)  
(39) 5 7 7 2 3  
TEL 5 7 7 2 3  
支店

営業時間  
A.M. 11:30~P.M. 9

やつぱりうまい  
むさしのとんかつ

コベ三宮  
ムサシ

でんわ③三七七一  
三一〇八



ピアドクトル  
探訪記 <9>

安 部 正 夫  
<オリエンタルホテル  
社長>

酒が好きなのは、親ゆずりでね。若い頃は、何度も二日酔をして死ぬんじゃないかと思ったこともありますが、おかげで人なみに飲めるようになりました(笑い)

イギリスでは、ビターというビールがあつて町々の居酒屋で異った味を楽しんだり、アントワープの港で、1軒小ビン1本と決めて全店を飲み歩いたり、戦時中にバンコクで米のビールとやらを飲んだりでアルコールにまつわる話はたくさんありますが、昔のことですよ。

ベルギー、オランダは、水が悪いのかわりにビールをよくのむようです。酒には、土地土地の“味”というものがあるんで、どこのどのビールがうまいの、まずいのというのはヤボですよ。

ビールが本当においしいのは、空気が乾燥していて、ノドがカラカラにかわいいている時でしょうね。

無菌性ビールが大好評です。  
会社の集会、ご家族の集いに  
ぜひどうぞ。

111 ★ビヤレストラン ニューオリエント

三宮駅前三宮ビル地階 TEL <22> 3124